



MONTHLY REPORT

- I. 2012年度第3回理事会および第2回総会報告
- II. CAMPING AWARD 2012 贈呈式を行いました
- III. 運営委員ミーティング報告
- IV. 新しい事務局スタッフを紹介します
 - ・ 都道府県キャンプ協会事務局担当者みなさまへ
 - ・ NCAJ CALENDAR
 - ・ TOPICS

東日本大震災から2年が過ぎました。3月11日の前後には、「まだ終わっていない」という論調の報道が続いていましたが、1〜2週もするとまた元に戻ったように感じられます。「まだまだこれからなのになあ」とは思いますが、マスメディア、特にテレビは“景気がよさそうに見える”方向へ流れてしまうものですから、こんなもんだと思っておくほうがよいのかもしれない。

とはいえ、実際には数十年といった長い期間をかけなければ終わらない課題さえいくつもあるわけで、どのような心持ちでいればよいかというのは難しい問題です。このことを考えたときに、真っ先に思い浮かぶのが、「Breakable(壊れ得る・壊れやすい)」という言葉です。この言葉を聞いたのは、去年の夏、テキサスでのことでした。グリーンキャンプのプログラムの中で、「素焼きの植木鉢と人間の共通点は?」と問われて、ノアという少年がこう答えたのです。

「人は壊れてしまう」、10歳に満たない少年の言葉とは思えず、ひどく印象に残りました。確かにこれは紛れもない真実ですが、ほんの“数年”の人生の中でそのことを思い知るほどに、彼にとって家族を失ったことは大きなインパクトだったのでしょう。このとき、別の少年は植木鉢と人間の共通点を「内側からのプレッシャーに耐えることができる」と答えました。これもとても印象に残っています。

人は耐える力を持っているけれど、壊れてしまうこともある。自分を大切にするため、小さな男の子たちに教えてもらった、このことを忘れないようにしたいと思います。そして、被災をされた方々、ほかの誰かを支えようとされている方々にも心に留めておいてほしいなと思います。



この間、もうひとつ思っていたのは、私たちは「お気軽」「お手軽」「簡単」という言葉を言い募り過ぎてきたのではないかということです。もちろん、その恩恵をたっぷり受けて生活しているのも事実ですから、単に「昔はよかった」などと言うつもりはありません。ついこの間まで放送していたテレビドラマ『とんび』を見て、「ええなあ」とウルウルしつつも、似たような雰囲気をもつ町で子ども時代を過ごした私は、あの温かさや引き替えにある面倒くささも痛いほどよくわかって、「あの中にはいたくないなあ」と本心で思うのです。

それでも、被災地に今も残るさまざまな課題を知るにつけ、「お気軽」「お手軽」「簡単」という言葉とともに切り捨てた面倒くさいことが、やっぱりある程度は必要だったのだと感じざるを得ません。東日本大震災を機に「グリーンサポート」が注目されているのも、「面倒くさい」とか「辛気くさい」という理由で日常の中から“死”を遠ざけてしまったために、特別なサポートが必要となってきたことを反映しています。

キャンプの中にその面倒なことを取り入れようという「グリーンキャンプ」は、「お気軽」の対極にあるキャンプです。しかし、なんらかの教育的意図をもって行われるキャンプというのは、いずれにしても本来的に面倒くささを内包するものでしょう。さらに、それ自体でお金を儲けるのは難しいですし、「結果」らしきものが必ずしも明確に見えるわけでもない。経済的合理主義や科学的合理主義は、ひとまず脇に置いておかないと成り立ちません。「お気軽」ではなくて、「面倒だけれど、おもしろい」とか「面倒だけれど、すごい」といった言葉のほうが魅力的であると感じてもらえるための取り組みが、何よりも必要なのだと思います。

事務局長 金山竜也

I. 2012年度第3回理事会および第2回総会報告

3月9日(土)に第3回理事会、3月23日(土)に第2回総会が行われ、2013年度の事業計画・予算が承認されました。

2013年度は、これまでに構築した公益法人という枠組みの中に、一つひとつ具体的な事業のピースをはめ込み、キャンプによる社会貢献をより具体的な形で示す地道な作業を進める1年となります。ひと言に「キャンプによる社会貢献」といってもその方法は多様であり、私たちが持ちうる資源を十分に吟味し、必要性の高い分野、得意分野に注力していく必要があります。

さらに、日本キャンプ協会が設立50周年を迎える2016年を目途とする、いくつかの事業も始まります。役員や運営委員、都道府県キャンプ協会に関わる方々など、公益社団法人の基礎となる「人の力」を結集して着実に事業を進め、キャンプを通じた幸せな社会づくりに貢献したいと考えています。

2013年度事業計画の4つの柱

キャンプを通じた社会貢献の推進

全人的成長に寄与するキャンプの特性を十分に生かし、グリーフキャンプをはじめとする、さまざまな社会的課題に対応しうるキャンプとその関連事業の実施に努めます。

- ・キャンプを通じた具体的な社会貢献のあり方の模索
- ・グリーフキャンプの実施と普及のための取り組み
- ・キャンプの意義の周知を図るための取り組み
- ・都道府県キャンプ協会との連携による普及事業の実施

社会に貢献できるキャンプ指導者の養成

安心安全で有意義なキャンプを実施できるキャンプ指導者を養成するとともに、地域に根付いた活動が継続できるような支援を行い、社会に貢献できるキャンプ指導者層の拡大に努めます。

- ・グリーフキャンプなど対象別指導者養成の充実
- ・研修事業などを通じた指導者養成団体と会員との関係づくりの支援
- ・キャンプディレクター養成制度改善への着手

キャンプムーブメントを広げるネットワークの醸成

多様な共同事業が行えるよう関係団体とのネットワークの強化を図るとともに、日常的に子どもの支援を行っている団体とキャンプ運営団体を結びつけるなど、キャンプを軸にしたネットワークの醸成に努めます。

- ・関係団体との共同事業の実施や研修等の情報の共有
- ・2016年のアジア・オセアニア・キャンプ会議開催に向けた組織委員会の設置と団体間の交流事業の実施

持続可能な運営体制の構築

継続的な運営を可能にする組織の適正規模を見極め、事業および法人運営の効率化を図るとともに、新しいファンドレイジングの仕組みづくりに努めます。

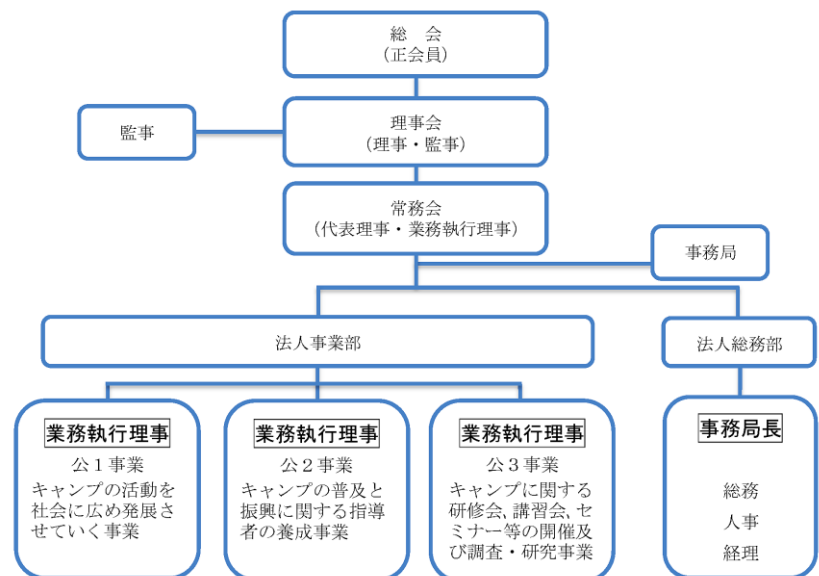
- ・日本キャンプ協会の適正規模の模索とそれに合わせた事務局機能の再編成
- ・新しいファンドレイジング※の仕組みづくり

※ファンドレイジング：民間非営利団体が活動のための資金を集めるための取り組みの総称。

日本キャンプ協会の事業運営体制

事業は公1、公2、公3の各事業を担当する業務執行理事（副会長・専務理事・常務理事）が進捗の管理に責任をもって運営されます。

運営委員会（旧専門委員会）は、各事業の業務執行理事が委員長として統括しますが、CAMPING編集など定期的な作業を行う必要があるものを除いては常設とせず、個別の事案に対応するタスクチームを編成するなど、柔軟な運営体制とします。



中期総合計画に基づく2016年に向けた取り組み

2013年度は、2012年3月に策定した中期総合計画で示された行動指針を基に、対応する事業を展開します。これらは中期総合計画で示された目標を完全に網羅するものではありませんが、現在の日本キャンプ協会として持ちうる資源を鑑み、着実に進められるものを選択的に実施します。

1. キャンプ協会事業の訴求力の向上を図る

- ・ 東日本大震災で被災した子どもを対象としたグリーンキャンプの継続実施とその情報提供
- ・ 子どものサポートを行う団体等との協働による、対象の拡大の模索
- ・ 企業等の支援を得るための取り組みの強化（ファンドレイジング）
- ・ CAMPING・WEB・メルマガ等を通じた情報発信
- ・ 広報ツールとしてのCAMPINGのあり方検討
- ・ 2016年にアジア・オセアニア・キャンプ会議を開催
- ・ それまでの間に行う広域事業としての地域活動支援事業
- ・ 朝霧野外活動センターの運営（7年目）
- ・ 2016年のアジア・オセアニア・キャンプ会議の開催と2013年度の組織委員会の設置

2. 協会組織の整備を行い、都道府県協会・関係団体との連携を強化する

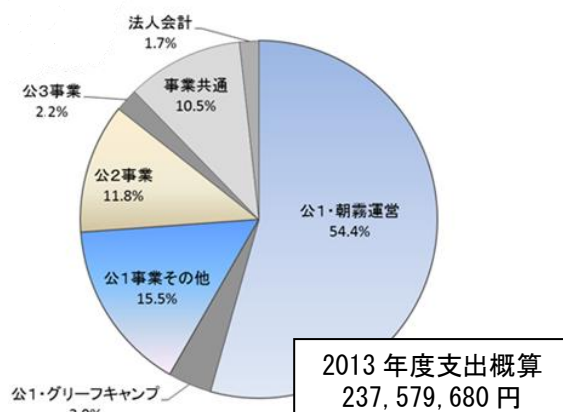
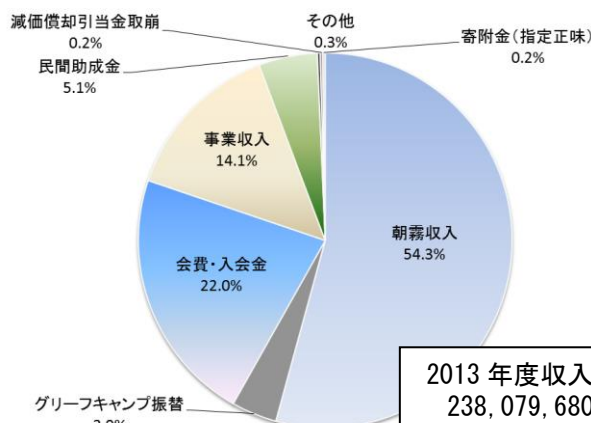
- ・ 事業数回復と公2、公3事業における改善検討に伴うタスクチームの編成
- ・ 業務執行理事による事業執行の責任体制下での着実な運営
- ・ 事務局主導型運営の共通認識化と、事業の内容に応じた運営
- ・ 広域で運営する事業の支援（地域事業支援プログラム）
- ・ 指導者養成制度の改良に向けた検討
- ・ 出会いと体験の森へ第3期ほか
- ・ アジア・オセアニア・キャンプ会議実施に向けた協働体制の構築

3. 活動を支えるさまざまな会員層の拡大を図る

- ・ 課程認定団体向け研修の実施と交流の場の設定
- ・ 課程認定団体向け情報（メルマガ等）の発行
- ・ 指導者養成制度の改良に向けた検討
- ・ グリーンキャンプを鍵とするファンドレイジングの仕組みづくり

2013 年度予算のあらまし

2013 年度の予算を短く表現すると、「厳しい状況に大きな変わりはないが、創意工夫をしながら、なんとか目に見える形の事業を増やしていこうとしている予算」と言うことができます。グリーンキャンプの取り組みも 3 年目を迎え、関心を持ってくれる企業なども出てきており、社会貢献につながるキャンプを日本キャンプ協会の活動の広がり結びつける可能性が少しずつ見えてきました。着実に事業を積み重ね、改善を重ねることで、より安定した運営環境をめざします。



- ・朝霧野外活動センター運営及びグリーンキャンプは、それぞれ個別の収入があり、他の事業とは独立して収支が成り立つ形になっています。
- ・グリーンキャンプ関連事業の実施には、これまでに預かった寄附金等(指定正味財産)を繰り入れるため、指定正味財産の期末残高は減少しますが、これは予定されているもので問題はありません。
- ・予算書に示された人件費は、朝霧野外活動センタースタッフを含む 16 名分です。

2013 年度予算書のダウンロード(PDF)→www.camping.or.jp/2013budget.pdf

II. CAMPING AWARD 2012 贈呈式を行いました

CAMPING AWARD は全国のキャンプ協会で著しく貢献された方々を表彰し、その功績を永く顕彰することを目的に、日本キャンプ協会設立 35 周年の 2001 年に始めました。

今年度は 16 名、1 団体が受賞され、3 月 24 日(日)の総会の中で贈呈式を行いました。

受賞されたみなさま、おめでとうございます。



贈呈式での記念撮影

お名前	推薦協会
野澤 巖 氏	日本キャンプ協会
松前 雅明 氏	福島県キャンプ協会
古口 倭子 氏	栃木県キャンプ協会
工藤 郁二 氏	群馬県キャンプ協会
高橋 正和 氏	千葉県キャンプ協会
飯田 弘 氏	東京都キャンプ協会
山口 洋子 氏	愛知県キャンプ協会
木村 和正 氏	京都府キャンプ協会
日本ボーイスカウト大阪連盟	大阪府キャンプ協会
桑田 千照 氏	兵庫県キャンプ協会
稗田 雄三 氏	奈良県キャンプ協会
川野 正雄 氏	岡山県キャンプ協会
内藤 宗紀 氏	島根県キャンプ協会
鍋島 一仁 氏	広島県キャンプ協会
川崎 依子 氏	高知県キャンプ協会
中島 宏 氏	福岡県キャンプ協会
吉村 正春 氏	長崎県キャンプ協会

Ⅲ. 運営委員ミーティング報告

3月8日(金)に、運営委員ミーティングを実施しました。公益法人化に伴い、従来の専門委員制度を改組し、タスクチーム型を中心とする運営委員制度としましたが、2012年度については、事務局側の不慣れもあり十分に機能させることができませんでした。そこで、委員のみなさまに2012年度の状況と2013年度の事業計画案について説明し、ご意見をうかがう機会を持ったのです。

さまざまなご意見がありましたので、ごく一部となりますが、ご紹介します。

- ・ 直接に関わる機会が減ると、「誰がキャンプ協会なの?」というか、主体性が見えなくなって、「言われればやりますけど…」という感じで受け身になってしまう。
- ・ 「若いころにお世話になった」という感覚をずっと持っているので、手伝えることがあるなら手伝いたいという気持ちは持っている。
- ・ 集まって話し合う“場”の魅力もあるので、組織を整えたらいいというものでもないのだろう。自分の経験では、直接的な利害関係のない中で、あれこれやらせてもらえたことがありがたかった。
- ・ ある形が定まっているような事業はピンポイント型でも成り立つが、新たなアイデアはピンポイントで行う委員会からは出てこないような気がする。
- ・ 委員会の機能を考えたときに、日本キャンプ協会の基礎として改めて「組織キャンプ」を打ち出した方がいいのではないかと思う。
- ・ 実際に関わることで、社会のさまざまな課題が見えてくるといふ部分があるので、若い人に向けて「興味のある人は手伝ってください」といふような場があるとよい。

これからの10年、20年を考えたとき、多くの人が関わる日本キャンプ協会のような団体においては、急激な変化でなく、緩やかな継承をとまなう世代交代が似合うのだろうと思います。ご意見をうかがうことで、運営委員は単なる事業実施のためのブレーンではなく、支える人を引きつける仕組みとしても大きな役割を担っているという認識を新たにしました。従来のようにいくつもの常設委員会を設けるということではできませんので、十分なことができるかはわかりません。しかし、それぞれに意義を感じていただきながら、お支えいただけるよう、事務局としてがんばらなければと考えています。

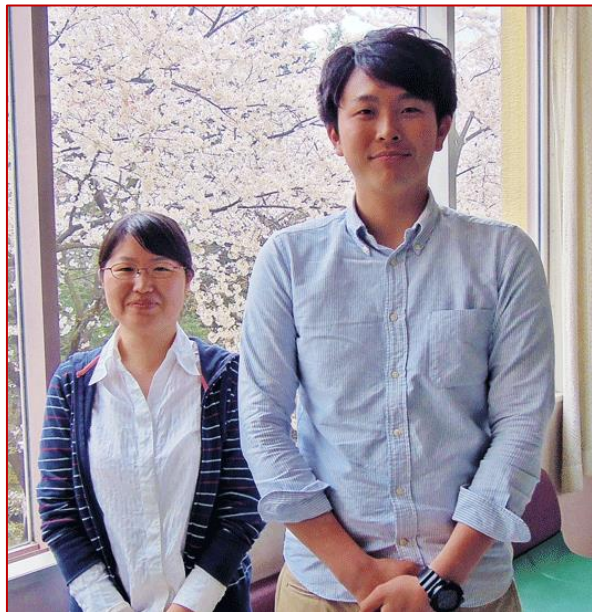
Ⅳ. 新しい事務局スタッフを紹介します

日本キャンプ協会に3月16日付けで新しいスタッフが入りました。前田将太(まえだしょうた)と五月女真弓(そうとめまゆみ)の2名です。仕事に慣れるまでは、ご迷惑をおかけすることもあるやもしれませんが、明るく、前向きに仕事に取り組むふたりですので、どうぞよろしくお願いいたします。

前田将太と申します。兵庫県伊丹市出身、大阪の大学・大学院を出ており、年齢は「ハンカチ王子世代」としておきます。少し抜けているところのある私を優しく迎えてくれたキャンプ協会の方々の優しさ感到いています。“褒められて伸びる”前田将太をよろしくお願いいたします。

こんにちは！今回新しく日本キャンプ協会の事務局に入った五月女真弓です。栃木で生まれて栃木で育った「とちおとめ(自称)」です。

今後、みなさんとお目にかかることも多いと思います。その時はぜひキャンプネームの「まあちゃん」と呼んでください！よろしくおねがいします。



五月女真弓

前田将太

各都道府県キャンプ協会事務局担当者のみなさまへ

第1回都道府県キャンプ協会指導者研修会について

2013年度第1回都道府県キャンプ協会指導者研修会(担当者会)は、5月26日(日)に実施します。この研修会では「県協会運営のてびき(仮称)」を配布し、日本キャンプ協会とのやりとりを中心に、事務局で行っていただくことについてひと通り説明します。できるだけ実際に事務局の業務に当たる方にご参加いただきますよう、お願いいたします。ご案内は4月中～下旬にお送りしますので、ご予定下さい。

日 時：5月26日(日) 午前9時～午後2時30分 (第1回総会の翌日)

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟3階

NCAJ CALENDAR

これまで

2/26	第2回出会いと体験の森へ実行委員会	@東京 YWCA
3/1	メールマガジン CAMPING News vol.63 発行	
3/3	関西野外活動ミーティング 2013	@ドーンセンター (大阪市)
3/8	運営委員ミーティング	@国立青少年センター
3/9	第3回理事会	@国立青少年センター
3/14	CONE 理事会	@国立青少年センター
3/22	メールマガジン CAMPING News vol.64 発行	
3/23	第2回総会	@国立青少年センター
3/24	第2回都道府県キャンプ協会指導者研修会	@国立青少年センター

これから

3/26-30	グリーンキャンプ・SKY CAMP in よしま	@神戸 YMCA 余島野外活動センター
4/1	CAMPING 152号発行 特集：センス・オブ・ワンダー	
4/4	第3回出会いと体験の森へ実行委員会	@東京 YWCA
4/12	メールマガジン CAMPING News vol.65 発行	
4/15	CAMPING 編集会議	@国立青少年センター
4/25	CONE 安全委員会	@国立青少年センター
4/26	組織整備委員会	@国立青少年センター

TOPICS

地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業企画公募

国立青少年教育振興機構では、青少年教育施設を中心として、都道府県・市区町村等地方公共団体、学校、青少年団体、企業、NPO法人等が連携し各地域において「体験の風をおこそう」運動を推進する事業を公募しています。2014年3月末までに行われる、地域が一体となって子どもたちに自然体験活動や生活体験などを直接体験する機会を提供するとともに、体験活動を促進する機運を高めるための事業が対象で、実施期間の関係者による実行委員会を組織することが条件となっています。

事業計画提出期限：4月23日(火)必着 (選定結果の通知は5月上旬の予定)

委託金額と件数：1件あたり300万円程度で、10件程度を採択予定

※ 公募資格等、詳細は以下のURLより要項をダウンロードしてご覧ください。

<http://www.niye.go.jp/services/taikennokaze/>

問合せ先：国立青少年教育振興機構本部 子どもゆめ基金助成課

Tel. 03-6407-7696

E-mail: honbu-josei3@niye.go.jp



公益社団法人日本キャンプ協会 Monthly Report vol.12 2013/3/25

発行者：公益社団法人日本キャンプ協会 事務局長 金山竜也

お問い合わせ・電話：03-3469-0217 e-mail: ncaj@camping.or.jp



Monthly Report vol.13は4月25日(木)ころの発行を予定しています。